

講義名	対)卒業研究		
講義コード	54407	授業形態	開講期・曜日・時限 通年 金曜日 4時限
担当教員	岸野 啓一		備考

学部・学科	演習分野
全学部・全学科	交通計画入門

概要説明

研究演習を通じて蓄積した知識や経験、収集したデータ、現地での活動などの成果を卒業論文としてまとめます。または、新しいテーマを設定し、これまでに培ってきた知見を活かして卒業論文を執筆することも歓迎します。

卒業研究では、一人ひとりが卒業論文を執筆するため、ゼミの時間を用いて個別指導することを基本とします。それに加え、前期・後期を通じて3回程度、本ゼミの学生が集まって中間発表会を開催し、遅滞なく計画的に卒業論文を執筆できるようにします。概略のスケジュールは次のとおりです。

<前期>
(第1～2回) 研究テーマの設定
(第3～6回) 目次の作成、文献等のレビュー
(第7～9回) 第2章の作成
(第10～11回) 中間発表会
(第12～15回) 第3章の作成

<後期>
(第1～2回) 中間発表会2
(第3～5回) 第4章の作成
(第6～7回) 第1章の作成
(第8～10回) 最終打合せ、修正
(第11～12回) 最終発表会
12月20日 提出

主な卒業論文のタイトル

2020年度から担当していますので、まだ卒業論文の実績はありません。

教員よりの要望

皆さんが大学に進学し、様々な専門科目の学修や研究演習などに取り組んでこられた成果の集大成として、卒業論文を執筆することを強く推奨します。

ただし、これまでゼミで何度もお話ししたように、常に前向きに物事を考えることがこのゼミの(私の)モットーです。多少の困難や問題があってもポジティブに捉え、「できる方法」を見つけてる気風を持った人は歓迎です。

× わずかな困難や問題に対してもネガティブに捉え、「できない理由」を並べて前に進もうとしない人は苦勞されると思います。

また、他力本願の人(時が経てば誰かが何とかしてくれるだろうという意識を持っている人)は思わぬ結果を招く(卒業論文を提出できないなど)ことがあります。一方で、一所懸命に、積極的に取り組んでいる人に不義理はしません。

履修に当たっては、上記のことを十分に理解しておいて下さい。

選考方法

本ゼミの研究演習で本ゼミに所属していた学生を受け入れます。

評価方法

次の要件を全て満たせば合格とします。
(1) 主体的に卒業論文の作成に取り組むこと。
(2) 中間発表会できちんと発表すること。
(3) 大学が定める期日までに、卒業論文を完成させ提出すること。

(たとえば、ゼミでの個別指導を受けず、あるいは中間発表もせず、突如として卒業論文を提出しても合格にはなりません)

教員英字氏名	研究室
Keiichi Kishino	棟 7階 2702研究室

最終学歴
神戸大学大学院 工学研究科 博士課程後期課程修了

学位
博士(工学)

主な研究活動・社会活動・研究業績

[研究テーマ]
観光地やイベントの交通対策
(検討プロセスの体系化、需要マネジメントの方法論、効果検証、対策の評価など)
人口減少社会における公共交通計画

[研究業績]
(1) 著書
バスサービスハンドブック(共著・編集幹事、2006年、土木学会)
地域でつくる公共交通計画・日本版LTP策定のてびき(共著、2010年、国際交通安全学会)

(2) 論文
岸野啓一、中尾司：トラフィックカウンターデータに基づく観光入込客数の推計、第8回都市交通政策・観光・交通行動研究に関する国際セミナー、2017。
岸野啓一：自治体による広域的な生活交通の確保方策に関する課題について、土木計画学研究・講演集、Vol.55、2017。
岸野啓一、高本恵三：活動機会を考慮したコミュニティバスの運行計画に関する実証的研究、第34回交通工学研究発表会論文集(研究論文)、2014。
など

[社会活動]
国際協力機構(JICA)国際研修・社会資本整備コース講師(1996年～現在)
生駒市地域公共交通活性化協議会アドバイザー(2011年～現在)
西宮市公共事業評価委員会会長(2019年～現在)

趣味・特技

[特技] 楽器(トロンボーン)の演奏。若い頃は学生オーケストラ、市民オーケストラで活動。現在は休眠中。
[趣味] クラシック音楽を聴くこと。鉄道に乗ること。ドライブすること。数学と戯れること。

所属

経済学部経済学科

所属学会

土木学会、日本都市計画学会、交通工学研究会、日本福祉のまちづくり学会

専門分野

総合交通計画、公共交通計画、交通需要予測、観光地交通計画

担当科目

地域まちづくり概論、都市交通計画、地域再生論、社会経済分析、行政学、地方行政論、公務員特別演習、研究演習、卒業研究、空間市場分析特論(大学院)

備考

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。関係者の了解が得られる範囲で、実務の成果や得られたデータをゼミの題材として活用。実務の現場でフィールドワークを実施。